

い状況なんだ。

それで、市はこれから28億2千万円の対策として、『財政健全化に向けた取り組み』をしっかりと進めていくことにしたんだ。



それは、要するに赤字をなくす手立てを考えているということだね。

例えば、どんな取り組みを行うの。



まずは、行政経費の削減や事務事業の見直しなどの歳出の抑制と、市税徴収率の向上や遊休市有地の売却などの歳入の確保を進めることにしたんだ。

そして、人件費を減らす取り組みとして、職員給与の独自カットと職員数も今の計画より、さらに削減することになっているんだ。でもね、行政の取り組みだけで

は、この28億2千万円の収支不足を埋めることができないから、Q

さんも含めた市民にも、市税の滞納をしないように協力をお願いするし、使用料や手数料の見直し、補助金や助成金の削減・廃止などの協力もお願いしなくてはならないんだ。



もちろん、僕も市民の一人として協力させてもらうけど、まずは行政で出来ることをしっかりとやってほしいね。

そうだね。大型建設事業は出来るだけ抑制し、そのほかの事務事業は毎年度、費用や効果などを評価して、継続や廃止を決めたりしているよ。これからも、いろいろ創意工夫を凝らして、財政健全化に向けて取り組んでいかなければならない。



それは出来るだけ抑制し、そのほかの事務事業は毎年度、費用や効果などを評価して、継続や廃止を決めたりしているよ。これからも、いろいろ創意工夫を凝らして、財政健全化に向けて取り組んでいかなければならない。



▲クリンクルセンター



▲市民プール「らくあ」



▲葬斎場

特集 まちの台所事情 ～市の財政公表～

まちの借金はどれくらい？



ところで、実質的な地方交付税の削減による影響は分かったけれど、ほかにも財政状況が厳しくなった要因があるんだろう。



もともと登別市は大きな企業が少なく税源が脆弱なことや、まちが分散して行政効率が悪いくさなどもある。財政力は高くないかな。



最近では、クリンクルセンターや最終処分場、火葬場、市民プールなどの老朽化に伴う建て替えが必要になったこと、そして遅れていた下水道整備などを行うために借りた市債（借金）の償還が重くのしかかっている、さらに財政が厳しくなっているよ。



たくさんあると思うけど、具体的に借金はどれくらいあるんだい。平成18年度末で、一般会計が約294億6千万円、公共下水道事業特別会計が約194億7千万円、そのほか合計すると約490億円にもなるんだ。その元利償還金は、平成18年度で約44億円にもなっているよ。一般会計で見ると、市債の償還額は歳出全体の16・9%も占めているんだ。



うーん。ちょっと桁が大き過ぎでピンとこないけど、16・9%というのはかなり大きな割合だよ。



暗い話で申し訳ないけれど、もう一つ忘れてならないのが、土地開発公社の長期債務で、平成18年度末の残高は約31億8千万円もあるんだ。土地開発公社は、市の依頼を受けて土地を先行取得するのが役割。市がこの土地を利用するときには買い取らなければいけないんだ。でも、厳しい財政状況から買い取りできなくなったため、土地開発公社は長期債務に頼らざるを得ない状況にあったんだ。

これからがまちの財政運営の正念場



確かに土地開発公社の分を含め、まちの借金はたくさんあるよ。でも、よく考えてみるとクリンクルセンターも火葬場も、市民にとってはなくてはならない施設だし、ニーズの少ない施設を造っているわけでもないんだね。ところで、この苦しい状況はいつまで続くの。